

第 12 章

大館能代空港建設局

地域経済の基盤として



1. 事務分掌

区分	事務分掌	人員	備考
総務企画担当	1. 局内外における連絡調整に関すること。 2. 予算・決算に関すること。 3. 給与・旅費・物品・文書に関すること。 4. その他	2	補佐1 主任1
建設企画担当	1. 大館能代空港建設事業の全体計画に関すること。 2. 局内外の技術調整に関すること。 3. その他	2	補佐1 主査1

2. 事業概要

1. 大館能代空港の必要性及び効果

(1) 必要性

県が平成2年度に策定した秋田県新総合発展計画「秋田21世紀へのトライ」において、交通は県土の基盤であり、21世紀の社会は高速交通網の果たす役割が特に増大するとし、そのプロジェクトとして大館能代空港の新設を掲げている。

特に、地域経済の基盤として最も重要である高速交通体系を整備し、高速交通体系空白地域からの脱却を図るということは、本地域が抱えている課題である人口の減少、過疎化、高齢化といった現象に歯止めをかけることにつながり、地域の活性化に大きく貢献することになる。

そのためには、同地域に全国各地と直結することが可能である中型ジェット機が就航できる空港（滑走路長2,000m以上）を早急に設置する必要がある。

なお、第4次全国総合開発計画においても、多極分散型国土の形成をめざし、全国一日交通圏を構築するため、地方都市から複数の高速交通機関へのアクセス時間を1時間以内とすることが目標とされている。

(2) 効果

- ・本地域と全国の主要都市とが短時間で結ばれることから、本地域が全国一日交通圏へ参入することが可能となる。
- ・旅客及び貨物輸送の高速化により、情報コストの低減、行動範囲の拡大、ビジネ

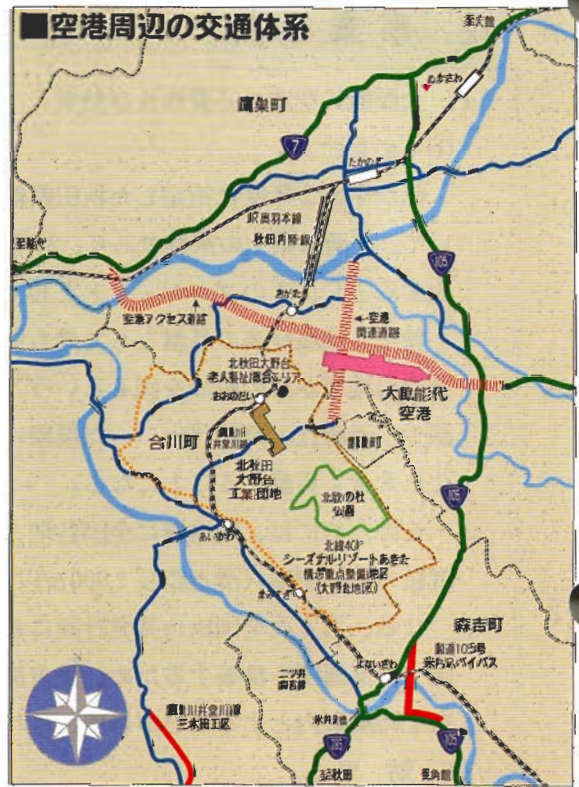
スキームの拡大、先端技術産業、ソフト産業等の立地促進、高付加価値型農林産物の市場競争力の向上、販路拡大等が見込まれる。

- ・取引機会の増加、人的交流の活発化、消費生活の高度化及び都市化により、商業その他サービス業の振興が図られる。
- ・本地域は、年間観光入込み客が400万人を越える十和田湖、八幡平を初めとする美しく雄大な自然と豊富な観光資源に恵まれており、観光開発及びリゾート開発のポテンシャルが極めて高い地域であることから、観光、レクリエーション需要を著しく増大させ、観光関連産業の活性化、リゾート地域の整備が促進される。
- ・進展する国際化、特に、環日本海時代に向けての人的、物的交流のための日本海側の交通拠点としての役割が期待される。

■東北地方の交通体系



■空港周辺の交通体系



2. 大館能代空港計画内容

(1) 設置者及び管理者の氏名と住所

ア 設置者

氏 名 秋田県
住 所 秋田県秋田市山王四丁目1番1号

イ 管理者

氏 名 秋田県
住 所 秋田県秋田市山王四丁目1番1号

(2) 飛行場の名称・位置及び標点の位置（標高を含む）

ア 名 称 大館能代空港（第3種空港）

イ 位 置 秋田県北秋田郡鷹巣町

ウ 標点の位置 北緯 40°11'21"
東経 140°22'30"

エ 標 高 84.0メートル

(3) 着陸帯の等級及び舗装帯の設計強度

ア 着陸帯の等級 C級

イ 舗装帯の設計強度 LA-12

(4) 飛行場の利用を予定する航空機の種類

ボーイング式 767型旅客機等

(5) 計器着陸又は夜間着陸の用に供するか否かの別

計器着陸（ILS CAT-1）及び夜間着陸の用に供する。

(6) 飛行場施設の概要

ア 管理面積 1,230,071平方メートル

イ 着 陸 帯 長さ 2,120メートル 幅 300メートル

ウ 滑 走 路 長さ 2,000メートル 幅 45メートル

エ 方 位

真方位 N280°18'12"E

磁方位 N288°10'00"E

オ 誘 導 路 総延長 230メートル

幅 30メートル

カ エプロン 面積 24,750平方メートル

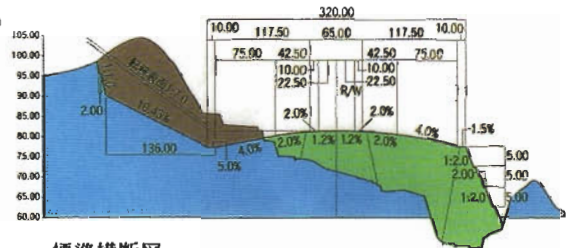
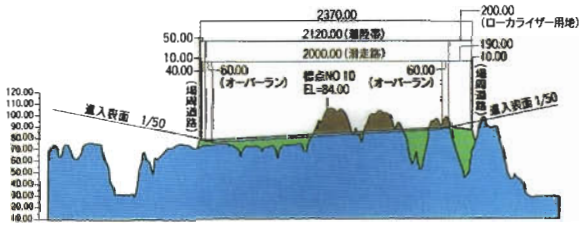
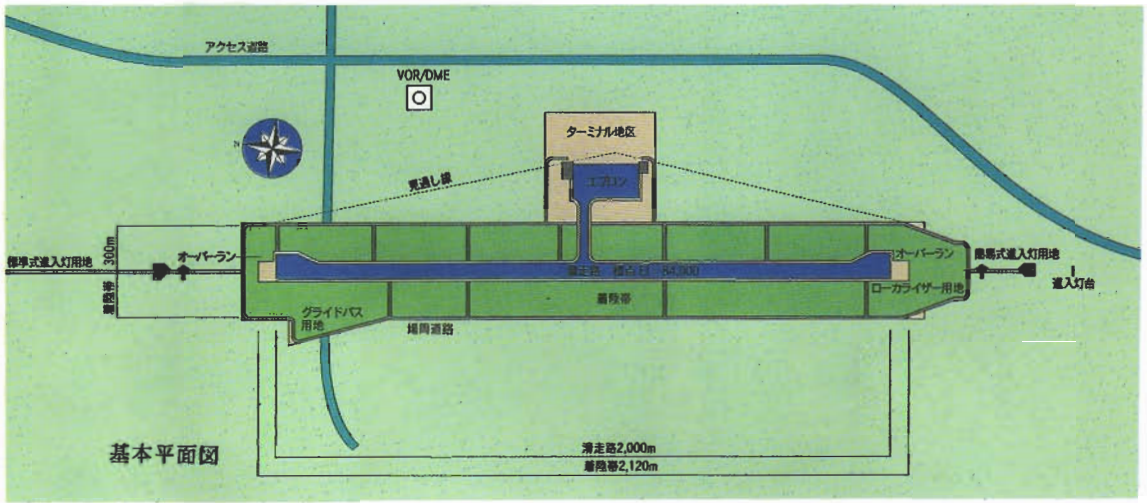
キ 駐 車 場 面積 13,510平方メートル

ク 構内道路 一式

- ケ 排水施設 一式
- コ 飛行場標識施設 ”
- サ 管制施設 ”
- シ 通信所施設 ”
- ス 管理施設 ”
- セ ターミナル施設計画
 - 旅客取扱施設 用地面積 8,586 平方メートル
 - 貨物取扱施設 用地面積 3,323 平方メートル
 - 給油施設用地 用地面積 3,150 平方メートル (100kl×4)

(7) 航空保安施設の概要

- ア 航空保安無線施設
 - I L S (LLZ、GP、MM、T-DME) 一式
 - VOR/DME ”
- イ 航空灯火
 - 進入灯火 一式
 - 滑走路灯火 ”
 - 誘導路灯火 ”
 - 飛行場灯台 ”
 - 風向灯 ”



●航空需要予測

(千人)

路線	平成 10 年			平成 15 年			平成 20 年		
	航空需要	機材	便数	航空需要	機材	便数	航空需要	機材	便数
札幌	—	—	—	60	SJ	2	63	SJ	2
東京	390	MJ	8	440	MJ	8	494	MJ	10
名古屋	—	—	—	60	SJ	2	67	SJ	2
大阪	83	SJ	2	90	SJ	2	97	SJ	4
合計	473		10	650		14	721		18

◆MJ：中型ジェット機 B767など



B767



B767

◆SJ：小型ジェット機 DC9, A320, B737など



DC9



A320



B737